



古代山陽道の道筋について : 龍野市揖西町構・小犬丸間の琴坂以東の道筋

田中, 眞吾

(Citation)

兵庫地理, 62:133-136

(Issue Date)

2017

(Resource Type)

journal article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90004020>



古代山陽道の道筋について

—龍野市揖西町構・小犬丸間の琴坂以東の道筋—

田中 眞吾

1. はじめに

古代山陽道、構～小犬丸間の道筋については、さまざまに描かれている。掲げた地形図は、明治28年測図、同30年製版の、2万分の1地形図、龍野およびその西隣的那波図幅を接合したものである(第1図)。

龍野から矢野への古代以来の道筋は、明治以降、種々の道筋が描かれている。ここに生を受けた筆者は、本来の道筋を明確に記しておく、務めがあるように考え、この一文を記すことにした。

2. 明治28年代の地形図に見る龍野市揖西町構・小犬丸間の道筋

明治期以前の旧道(旧来の西国街道)は、現龍野市揖西町構から南西方向に向きを変え丘陵際まで入り、以後、丘陵際を西進して琴坂へ至った。その道跡は、峠最高所で、現在の県道南側の斜面上、約3mの高さで西進・降下し、後、北行し、後、ほぼ、現行道路沿いに西進した。

現行の県道ルートは(第2図)、構から向きを変えることなく、比較的真っすぐに西進し、峠東側のため池をまたいで、峠を越えていく。龍野市史編纂時においては、条里制研究の成果(渡辺1978)を参照し、現在の県道ルートの近辺を通過する直線路を想定しており、古代街道の正しい道筋に言及することはなかった(今里1978)¹⁾。一方、付録とした地形図は、より新しい成果をとったので、古代ルートは示されなかった。

第1図は明治28年代の2万分の1地形図、龍野およびその西隣的那波図幅を接合したものである。東西に延びる道路は西国街道である。後の地形図と異なり、第1図にはかつての旧道の道筋が明瞭である。この図を掲げたのは、これまで西国街道のこの

部分の位置が従来、誤って図示されているものが多かったので、それに注目して、そして、訂正くださるようお願いするためである。

3. おわりに

筆者は、教師の父母の影響を受けて、小学生時から地域の事物に関心があった。父は、明治の末年から、地域の小学校教師を経て龍野高女・中学等で地歴の教師をしており、私は副教材として各社から送られてくる副読本やノート類と遊んで育った。また、母は琴坂を越えたすぐ西の東村出身で、琴坂の旧道を坂の東の揖西村第一小学校へ通った。そのような事情で地域の往時を知る者として育ったので、より正しいことを伝えておきたくて、筆をとった次第である。

注

1)『龍野市史』では、当該箇所(の)の古代山陽道について、「すなわち、古代山陽道は大市駅家(向山遺跡)の北方をかすめて西進し、槻坂をこえたところから平野部を一直線に西へすすみ、林田川・揖保川・中垣内川を渡って琴坂に達する。さらに、この峠をこえ布施駅家(小犬丸遺跡)のすぐ南をかすめて谷間を西進し、」(以下略)と紹介している。またその路線が通るのは、揖保郡条里として復元されている条里地割の余剰帯の部分に相当する、との説も記している(今里1978 ; p.358)。

文献

今里幾次(1978)「古代の龍野：律令下の農民：古代の駅制と布勢駅家」龍野市史編纂専門委員会編『龍野市史 第1巻』龍野市, pp.347-362

渡辺久雄 (1978) 「古代の龍野：律令下の農民：龍野市
域の条里」龍野市史編纂専門委員会編『龍野市史
第1巻』龍野市, pp.336-347

(たなか しんご 神戸大学名誉教授)

編注) 本稿では参考として、『龍野市史』において示された市域の条里復元図を第3図として掲げた。第3図の14坊と15坊の境界にあたる地割部分を、古代山陽道が直線的に通っていたと当時理解されていたのが、うかがえる。

また近年の成果として、例えば考古学的に小犬丸遺跡および周辺の環境等を検討した別府洋二は、小犬丸遺跡周辺の古代山陽道について図示している(別府2002;第4図参照)。別府は本稿で掲げた明治28年測図の地形図を用いているが、古代山陽道はあくまで直線路として描かれ、旧道への言及は認められない。その意味で本稿における指摘は、龍野の古代山陽道に関わる研究に対して、十分な示唆を与えていると言えよう。

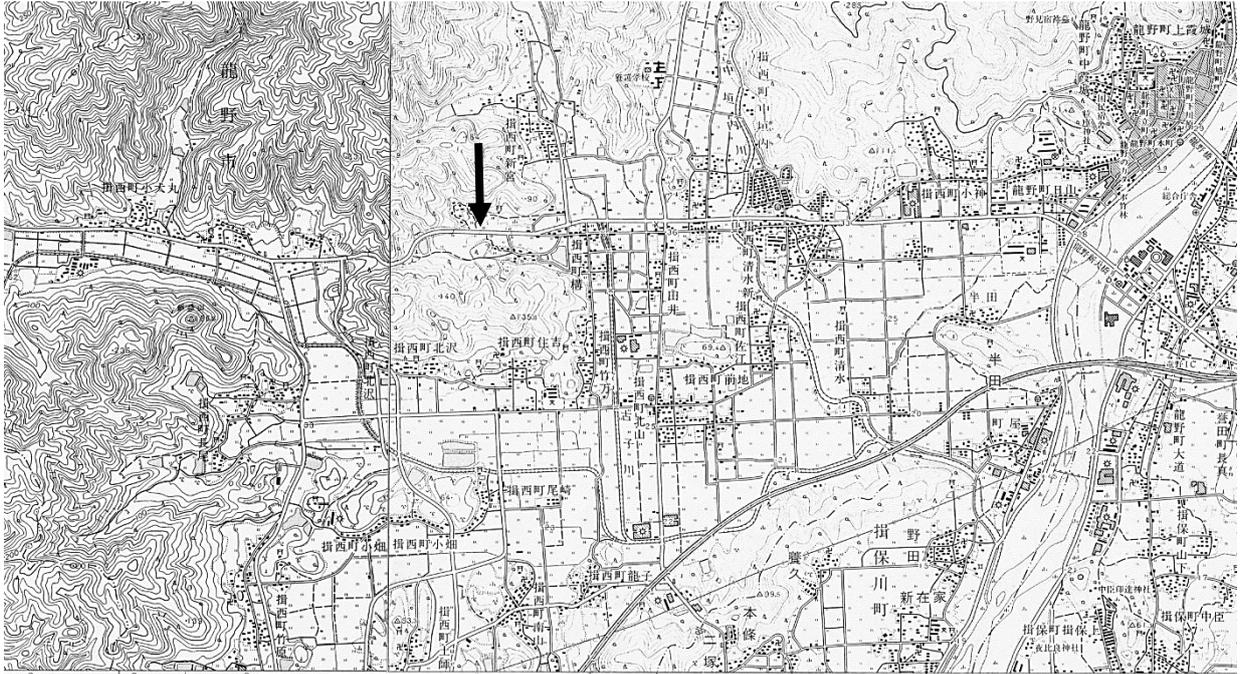
編注文献

別府洋二 (2002) 「駅家の構造と機能—小犬丸遺跡
(布勢駅家)の再検討を通じて—」『兵庫県埋
藏文化財研究紀要』2, pp.79-92



第1図 明治28年代の構～小犬丸周辺

(明治28年測図、明治30年製版、2万分の1地形図「那波」および「龍野」による。原寸。)



第2図 現行の県道ルート

(矢印の道路。2万5千分の1地形図「二木」平成5年修正測量および「龍野」平成2年修正測量による。原図を50%に縮小)



第3図 龍野市域を中心とした条里復元図

(左) 渡辺 (1978) によって示された条里地割



第4図 布勢駅家の周辺と関連遺跡

別府 (2002) による。明治28年測図の2万分の1地形図を用いて作図されている。